

日本独文学会第69回総会 春季研究発表会

2015年5月30日(土)・31日(日)

第1日 午前10時より

第2日 午前10時より

会場 武蔵大学

☎176-8534 東京都練馬区豊玉上1-26-1

Tel. : 学会当日 : 03-5984-3736 (独文学会実施本部)

前日(29日)まで : 03-5984-3713 (学園運営部大学庶務課)

e-mail: tagung2015musashi@jgg.jp

参加費 : 1,500円 (学生, 常勤職のない会員は1,000円)

日本独文学会

☎170-0005 東京都豊島区南大塚3-34-6 南大塚エースビル603

Tel./Fax 03 - 5950 - 1147

メールフォーム : <http://www.jgg.jp/mailform/buero/>

プログラム

第1日 5月30日(土)

開会の挨拶 (10:00~10:05)

A会場(1101教室)

光野正幸

総会 (10:05~11:30)

A会場(1101教室)

- | | |
|------------------------------|--------|
| 1. 会長挨拶 | 渡辺 学 |
| 2. 議長囑任 | |
| 3. 庶務報告 | 田中 慎 |
| 4. 渉外委員会報告 | 井出 万秀 |
| 5. 会計報告 | 藤縄 康弘 |
| 6. 編集委員会報告 | 藤井 明彦 |
| 7. 企画報告 | 大宮 勘一郎 |
| 8. 広報委員会報告 | 初見 基 |
| 9. データベース委員会報告 | 斉藤 涉 |
| 10. 文化ゼミナール委員会報告 | 宮田 眞治 |
| 11. 語学ゼミナール委員会報告 | 河崎 靖 |
| 12. 教授法ゼミナール委員会報告 | 保阪 良子 |
| 13. ドイツ語教員養成・研修講座報告 | 太田 達也 |
| 14. 研究叢書報告 | 森 芳樹 |
| 15. ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査委員会報告 | 太田 達也 |
| 16. ドイツ語教育部会報告 | 吉満 たか子 |
| 17. 支部報告 | |

- 議事
1. 2014年度決算書および2015年度予算案について
 2. 会員の互選による理事の囑任について
 3. 支部選出理事の囑任について
 4. 監事の囑任について
 5. その他

会員意見開陳

日本独文学会賞授賞式 (11:40~12:10)

A会場 (1101教室)

ドイツ語学文学振興会賞授賞式・総会 (12:15~13:15)

A会場 (1101教室)

ドイツ語教育部会総会・講演会 (12:40~14:20)

B会場 (1002教室)

総会 (12:40~13:10)

講演 (13:20~14:20)

講演会1：識名 章喜 (慶應義塾大学)

「大学ドイツ語入試問題の問題点—慶應義塾大学の場合」

講演会2：渡部 良典 (上智大学)

「教育の一環としての大学入試」

シンポジウム I (14:30~17:30)

A会場 (1101教室)

ウィーン 1945-1966 — オーストリア文学の「悪霊」たち

Wien 1945-1966 — „Dämonen“ in der österreichischen Literatur

司会：桂 元嗣

1. 「オーストリア的なるもの」の復興
— 戦後ウィーンの文学・芸術雑誌を手がかりに 前田 佳一
2. 『伝説的人物』か、前衛芸術の父か
— 戦後オーストリアとギューターズロー 桂 元嗣
3. ジョルジュ・ザイコからみた戦後オーストリア
— 1950年以降の小説とエッセイを手がかりに 早川 文人
4. 戦後オーストリア文学による忘却と称賛
— 亡命作家ローベルト・ノイマン, ヴェーザ・カネッティ, エリアス・カ
ネッティを例に 須藤 温子

シンポジウム II (14:30~17:30)

B 会場 (1002 教室)

「ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査」に基づきこれからのドイツ語教育
を考える

**Die Ergebnisse der JGG-Untersuchung und die Zukunft des Deutschunterrichts in
Japan**

司会：田野 武夫・白井 宏美

1. 「ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査」の概要と結果
太田 達也
2. Vom Lernziel zum Lernwerkzeug. Die Rolle der Grammatik in einem
inhaltsbasierten Deutschunterricht Michael Schart
3. 普通教育課程における言語と社会文化の統合的学習を目指す試案
杉谷 眞佐子
4. ドイツ語の継続的学習へ向けて
— 政治学の教員と運営するドイツ語圏社会文化演習の試み 生駒 美喜

シンポジウム III (14:30~17:30)

C 会場 (1001 教室)

ドイツ語と日本語に現れる空間把握 — 認知と類型の関係を問う

Raumauffassung im Deutschen und im Japanischen

— Wie sich Kognition in der Typologie widerspiegelt

司会：田中 慎

コメンテーター：中村 芳久

1. 品詞と空間把握の日独比較 藤縄 康弘
2. 動詞形態と空間把握 宮下 博幸
3. 空間把握と文法化 仁科 陽江
4. 空間把握と間主観性 大藪 正彦
5. 空間把握の類型化に向けて 小川 暁夫

口頭発表：文学1（14:30～17:45）

D会場（8501教室）

司会：畠山 寛・由比 俊行

1. ヘルダーリン『ディオティーマを慕うメノーンの嘆き』における讃歌的なものについて
小野寺 賢一
2. ヘルダーリンにおける「教育者」(Erzieher)の概念について
大田 浩司
3. デイオティーマの「熱狂」
— フリードリヒ・シュレーゲルの神秘主義的批評と「芸術家」の概念
胡屋 武志
4. J・M・R・レンツの文壇諷刺劇『ドイツのパンダイモニオン』
— 新しき詩学の予感と実践
今村 武
5. Selbsterfahrung und Autobiographie in Adalbert Stifters Mappe meines
Urgroßvaters
Yusuke Idenawa

口頭発表：文学2・文化・社会（14:30～17:05）

E会場（8502教室）

司会：若林 恵・浅野 洋

1. シュトルムの歴史小説とシュレスヴィヒ・ホルシュタイン問題
加賀 ラビ
2. Nach dem Ende. Eine Infragestellung des Begriffs der Postapokalypse.
Leopold Schloendorff
3. 上演における「言葉」
— ロター・シュライアーの表現主義実験演劇
柴田 隆子
4. 演劇とオペラを架橋する合唱
— ロルツィングの主要作品におけるその役割
長谷川 悦朗

口頭発表：語学1（14:30～17:05）

F会場（8701教室）

司会：高橋 亮介

1. ドイツ語における時制とアスペクトの連動
嶋崎 啓
2. ドイツ語 zu 不定詞句の左方領域と内部構造
— 動詞の補足成分であるものを対象に
伊藤 克将
3. ベートーベンの言語生活を垣間見る
— wegen の格支配をめぐる歴史語用論的考察
佐藤 恵
4. ルクセンブルク語北部方言の文章語での使用
田村 建一

ポスター発表 (13:00~14:30)

(ポスターは期間中を通じて掲出されています)

G会場 (8号館7階・談話コーナー)

文学と美術を横断するキュビズム

— カール・アインシュタインにおけるパラダイム転換

鈴木 芳子

Die erste Stunde Deutsch. Einstieg in eine neue Fremdsprache.

Oliver Mayer

情報の再構築から観察する読み — 日本語を母語とするドイツ語学
習者に対する要約課題を手がかりに

西出 佳詩子

ドイツの「食」はいかに変化してきたか

— 生活改革運動から現在まで

佐藤 温子

„Sprachlernspiele — ein Unterrichtsmittel mit hohem pädagogischem Potenzial

— Teil 2“

Marco Schulze

ブース発表 1 (14:00~15:30)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

H会場 (1302 教室)

Hörübungen in Lehrwerken Deutsch als Fremdsprache — kritische Bestandsaufnahme
und Analyse

Gabriela Schmidt

Katrin Niewalda

Shinichi Sakamoto

ブース発表 2 (14:00~15:30)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

I会場 (1301 教室)

生涯学習における小規模ドイツ語教室の現状と展望

堀口 順子

ブース発表3 (14:00~15:30)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

J会場 (1402 教室)

PASCH 校におけるドイツ語教育
— 中等教育からのドイツ語学習

柴田 育子
須江 康司
能登 慶和
中山 匡
丸山 智子

ブース発表4 (16:00~17:30)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

H会場 (1302 教室)

「オリジナル漫才(MANZAI)」の作成課題を取り入れたドイツ語授業の試み
— 実践報告と今後の課題

平松 智久

ブース発表5 (16:00~17:30)

(ブース発表は途中での出入り自由です)

I会場 (1301 教室)

„Dynamic Play Learning System: Über die Einführung von Spielen in deutschen
Konversationskursen“

Asuka Yamazaki

ドイツ語教育部会 「大学ドイツ語入試問題検討委員会」 展示・発表
(13:00~17:30)

K会場 (1304 教室)

懇 親 会 (18:00~20:00)

会場：8号館8階 武蔵大学50周年記念ホール
会費：6,000円（学生，常勤職のない会員は4,000円）

第2日 5月31日(日)

シンポジウムIV(10:00~13:00)

A会場(1101教室)

文学はどこに向かうのか — ドイツ語圏越境文学の諸相と可能性
**Wohin geht die Literatur? — Aspekte und Möglichkeiten der transnationalen
Literatur im deutschsprachigen Raum**

司会: 土屋 勝彦

1. 欧州連合拡大過程の中の移民文学・映画
— トルコ系移民二世作家セリム・エツトガンとファティ・アキンの近年
の作品における<越境>の諸相 林寄 伸二
2. カフカからモニーコヴァーへ
— プラハ発のふたつのマイナー文学 島田 淳子
3. 越境する盲点としての南チロルと身体
— Sabine Gruber における隠喩の越境的連携について 眞鍋 正紀
4. 「越境文学」を再考する多和田葉子の Mammalia in Babel と『動物たちのバ
ベル』 越川 瑛理

シンポジウムV(10:00~13:00)

B会場(1002教室)

R・シュトラウスのオペラ作品における音楽と文学の関係性を読み解く
**Ein Versuch zur Entschlüsselung des Verhältnisses zwischen Musik und Literatur
bei den Opernwerken von Richard Strauss**

司会: 野口 方子

コメンテーター: 光野 正幸

1. »schweigen und tanzen!«
— 《エレクトラ》の幕切れについての一考察 北川 千香子
2. 《ルツィドール》から《アラベラ》へ
— 小説がいかにかオペラという表象芸術になったか 野口 方子
3. シュトラウス・オペラ作品の歴史的変遷と音楽的概観 広瀬 大介
4. 歌唱芸術における、音楽と歌詞との関係性について
— 声楽家から文学への提言 望月 哲也

シンポジウム VI (10:00～13:00)

C 会場 (1001 教室)

ドイツ語における有生性
Belebtheit im Deutschen

司会：清野 智昭・時田 伊津子

1. 感情形容詞における構文
— 心理動詞との関連において 室井 禎之
2. ドイツ語心理動詞構文における主語の人称制限 清野 智昭
3. 無生物主語の使役構文について カン・ミンギョン
4. 3 項動詞構文の語順における有生性 時田 伊津子

口頭発表：文学 3 (10:00～12:35)

D 会場 (8501 教室)

司会：福間 具子・富岡 悦子

1. オットー・バジルの詩集『天秤座』における詩的プログラム 日名 淳裕
2. H. H. ヤーンにおける原作と改作の問題 北村 優太
3. デーブリーンの死生観 — 『ハムレットあるいは長き夜が終わる』
で描かれる「新しい人生」 時田 郁子
4. 理解は生起する — ガダマーとド・マンにおける出来事概念 林 英哉

口頭発表：語学 2 (10:40～12:35)

E 会場 (8502 教室)

司会：黒田 享・Maria Gabriela Schmidt

1. 会話の理解・不理解と視線配布の関係 — 日独比較分析 白井 宏美
2. 聞き手の存在は、ドイツ語の心態詞と日本語の終助詞の出現に
影響するか？ 岡本 順治
3. Das Plädoyer für den Konjunktiv als unverzichtbares Mittel im Gebot der
stilistischen Abwechslung Manshu Ide

口頭発表：ドイツ語教育（10:40～12:35）

F 会場（8701 教室）

司会：濱野 英巳・Davide Orlando

1. Studienaufenthalte in Deutschland
— „Was brauchen unsere Studierenden eigentlich?“ Zur Implementierung
adressatInnengerechter Komponenten ins Programm M. Gunske von Köln
2. Was wissen meine Studenten und wovon kann ich ausgehen? — Studie zur
Erfassung des Vorwissens von Lexik bei Studienanfängern in Bezug auf Deutsch
nach Englisch in Japan Frank Nickel
3. 多様化するルクセンブルクにおけるドイツ語識字教育
— 現場と言語教育政策との関わりから 小川 敦

ポスター発表（10:00～13:00）

（ポスターは期間中を通じて掲出されています）

G 会場（8 号館 7 階・談話コーナー）

ブース発表 6（11:30～13:00）

（ブース発表は途中での出入り自由です）

H 会場（1302 教室）

ソーシャルメディアの文学的な可能性を考える

— カール・クラウスの新聞諷刺を出発点とする考察

河野 英二

ブース発表 7（11:30～13:00）

（ブース発表は途中での出入り自由です）

I 会場（1301 教室）

ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査報告

— 教員・学習者を対象とするアンケート結果から

ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査委員会

太田 達也，高岡 佑介，生駒 美喜，磯崎康太郎

神谷 善弘，柴田 育子，藤原 三枝子，星井 牧子

室井 禎之，藁谷 郁美，Marco Raindl，Angelika Werner

（調査についてのポスターは、期間中を通じてI会場前に掲出されています）

ドイツ語教育部会「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示・発表

(10:00～13:00)

K会場 (1304 教室)

閉会の挨拶 (13:05-13:10)

A会場 (1101 教室)

新田 春夫

招待講演 (13:30～14:30)

A会場 (1101 教室)

Dr. Ingo Schöningh (東京ドイツ文化センター・語学部長) :

Deutsch in Japan: Geschichte, Gegenwart und Konsequenzen

für eine zukünftige Bildungskooperation

学会期間中，上記のプログラムに加えて，下記の展示が行われます。

・書店・出版社等による各種展示（書籍展示会場：1201 教室，1203 教室）